

税金で支え合う

塩竈市立第一中学校 1年 岩崎 凌空

僕は、「成長ホルモン分泌不全性低身長症」という病気のため、幼少の頃から数ヶ月に一度通院し、身長を伸ばすための注射を毎晩自宅で打ち続けている。

しかし僕が小学生だったある時、病院でお会計をする際、周りの大人は診療代や薬代を支払っているのに、自分は支払っていないことに気づいた。僕は母になぜ払っていないのかをたずねると、「子ども医療費助成制度」や「高額療養費制度」を受けているからだと教えてくれた。続けて母は、こう話した。

「この注射の薬のお金は税金から支払われているから、税金を納めている多くの人ののおかげであなたは注射を打つことができているの。だから、あなたはきちんと社会に貢献できる人になって、恩返しをきなさい。」

この言葉の意味を、当時の僕はまだ理解することができなかった。しかし去年の小学六年生のとき、「税の教室」という授業で税金について学ぶ機会ができ、このときのことを思い出すことができた。そしてあの時わからなかった話もわかり、はっとした。

これまで、僕は受診することが当たり前と思い、治療費や薬代のことを考えたことがなかった。しかも、注射の針を挿したときの痛みや、毎晩根気強く続けなければいけないことに耐えられなくなり、いつそのこと治療をやめようかと思ったことが何度もあった。しかし僕の約十年間は、たくさんの医療制度、税金によって助けられてきたのだ。調べてみると、毎晩僕が打ち続けているこの注射の薬は一本数万円もするため、それを毎日十年間と計算すると、なんと数千万円以上もかかっていた。僕はこの医療制度のおかげで、経済的な心配で治療を断念することなく、今も続けることができている。

また、買い物の際には、十パーセントの消費税を、なぜ子どもまで少ない小遣いの中から払わなければならないのかと、不満で仕方がなかった。しかし今では税金の使い道や税金を納めることの大切さを学び、税金があるからこそ、僕のように、救われている人がたくさんいると実感した。

税金は、僕たちの社会を、僕たちの生活を支えている。税金が無ければ警察や消防、救急などの公共サービスが機能しなくなる。学校で使う教科書だって、無償ではなくなる。僕たちの身の周りには、たくさんの税金が使われているのだ。一人が納める税金が少額でも、みんなが納税することで、必ず誰かの役に立ち、この日本を豊かにすることができる。

僕が大人になったとき、母が話してくれた「恩返し」という言葉を忘れずに、将来しっかり働き、少しでも多くの税金を納めたい。そして今までみんなの税金によって助けられていた僕が、今度は税金を払うことで、他の困っている人を支えていきたいと思う。